第１回協議会の記録

令和５年７月１５日（土）

13:00～　　会議室

第１回 平塚江南高等学校 学校運営協議会

１．委員委嘱

２．校長挨拶

３．組織、計画紹介（管理渉外Ｇ）

４．自己紹介

５．本年度学校目標について（副校長）

６．本年度の行事について（管理渉外Ｇ）

７．学校紹介パンフレットの説明

８．各部会に分かれて（15 分程度）

議事録１　　令和５年度　平塚江南高校　学校目標について

（副校長）

【教育課程/学習指導の視点】

令和２年度より始まったSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取組も４年目に入った。今回SSHに関する昨年度の中間評価を踏まえて「教育課程/学習指導」に関する新たな目標を設定した。また昨年までの反省を踏まえ、「生徒支援」「進路支援」「地域との協働」「学校管理/学校運営」の各視点から、今年度の新たな学校目標も設定した。

特に今年度は令和２年度に策定した４年間の目標の実施最終年度にあたり、令和６年度からはじまる新たな４年間の目標を策定する１年となっている。校内の議論、外部からの意見等を踏まえ、今後、江南高校が進むべき方向を今年度中に明確にしていきたいと考えている。委員の皆様のご助力を賜りたい。

中間評価では、本校のＳＳＨ事業について、研究開発グループを軸とした組織的な取組により全校的な意識が高まっており、ＰＤＣＡサイクルも回り始めている点、全校生徒を対象に文理融合型のカリキュラムの中で探究的な学習実践等が前進していることが評価された。また「サイエンスインターシップ」等の外部連携事業に成果を上げていること、オンラインによるモロッコ、中国の教室との交流やインドネシアにおける国際的言語での数学体験等に実績を上げていることが評価された。

一方で研究開発の目的・目標において”「〇〇力」を育成する”という文言が多くみられるが、実際に「〇〇力」の育成に関する進捗状況をルーブリックで評価するのであれば、その結果を“見える化”する必要がある等、評価手法の開発や改善、その整理に取り組むことが期待されるとの指摘を受けた。また、外部連携や国際交流の中で、今後は「主体性」を育成する取組が期待されること、引き続き大学等との連携により専門職人材の支援を得て課題研究や評価の指導を行うことが期待されるとの指摘を受けた。

【生徒指導/支援の視点】

特に自転車乗車マナーに関して、近隣からの指摘を受けることが多い。スピードの出し過ぎ、並走行為など引き続き生徒支援グループを中心として継続的な指導を行っていきたい。また、朝の六本門付近の混雑が見過ごせない状況にあることから、市役所及び平塚警察、富士見町内会と連携して新たな門の設置に向けて動きたいと考えている。

学習に対するプレッシャーや家庭環境等から学校生活を送ることに困難を抱える生徒が少なくない。スクールカウンセラーに加えて、今年度よりスクールソーシャルワーカーが配置された。専門職の知見を活用しながら、きめ細かく、これまで以上に迅速な生徒対応、保護者対応を実現させていきたい。

【進路指導/支援の視点】

「生徒一人ひとりの高い志を保つ進路支援を目指す」という基本姿勢は変わらない。今の自分の実力で「行ける大学」を探すのではなく「行きたい大学」を目指すというメッセージを生徒には送っている。難関大学特別講座を開催するなど、実力に裏打ちされた自信を持てるよう引き続き指導をしていく。

【地域等との協働の視点】

地域と協働しながら学校運営協議会の充実を図る他、防災教育及び防災体制を強化していきたい。7 月 13 日には、ＮＨＫアナウンサー井上二郎氏を講師に迎え「ことばで命を救う」というテーマで全校生徒を対象に防災授業を実施した。授業の後半には、近隣住民の方々も加わり、いざと言う時に身近な人にどんな言葉をかければよいかアイデアを出し合う等、有意義な実践となった。

【学校管理/学校運営の視点】

高ストレスと判定される教員も一定数おり、教員の働き方について、様々な見直しや一人ひとりの意識改革が急務となっている。衛生委員会を中心として、時間外労働時間の把握に努め、改善できることを探っていきたい。

議事録２　　授業改善部会　記録

○多くの中学生から選ばれるような魅力的なカリキュラムを開発してほしい。中学生がもっと学校の中身を見られる工夫はないか？

○中学生と高校生がもっと頻繁に行き来できると良いのではないか。

○夏休みに実施している「スタディアシスト(江南生が中学生に学習支援をするイベント)」などの企画はとても良い。ただし案内が来る時期が遅く配信できない（中学校は夏休みが早い）。

○中学生は何に興味を示しているのか？

○塾と親の影響が大きいと思うが、知的好奇心を持った中学生もいる。こうした生徒は“学びが豊か”で“伸びしろがある”と感じる。

○ゼミの研究タイトル（玉石混淆ではあるが）を提示するだけでも中学生は興味を持つのではないか。学校説明会等で示すことは可能ではないか。

○様々な専門家と実際に繋がることを体験し、「江南高校に入学すればこういうことができる」という印象を持たせたい。人材の宝庫である同窓会をうまく活用してほしい。

○江南高校で一流の専門家と関わることができるという点を第２期申請の柱の一つとしても良いと思う。

○８つの資質・能力を意識した授業を考えることは、授業改善につながると思う。

○共創探究における課題研究の場合、文系的なテーマにおいてもデータサイエンスの活用が必須となるよう、研究を誘導することが重要である。

○単なる調べ学習とならぬよう、研究に必須の条件を明示するのはどうか。

議事録３　　キャリア部会　記録

○ うちの子どもは、今年卒業した。観光・まちづくり系に興味があり、大学進学に向け、授業外で「地理」を個別指導してもらった。江南の教員に助けてもらった中原中学校から同期で 10 人入学したが、翌年は５人。近いところより市外の高校に行きたい思いが強いようだ。

○ うちの息子も江南の卒業生、今は働いている。自分も新採用者の面接を担当しているが、偏差値で並べられた高校ランキングと企業から見た出身大学・高校のランキングとは別物という印象が強い。偏差値的に高い大学でも必ずしも優秀かというとそうではない。企画力・構成力など、これから AI 化していくと、また指標も変わるだろうが、様々な経験を早くできると良い。（企業としては）一定以上の学力があればチャレンジ力、企画力があるほうが良い。これからのニーズに合わせた体験をさせてあげることが大事だと思う。企画力・構成力は、15 年前くらい前から大学による差異を感じなくなった。

○ IT 系・保険系の方が給与水準が高いため転職してしまう。国際競争にもさらされ、どこの会社も人の取り合いである。今は大学の研究室とのつながりもなく就職することが多い。人集めに苦労している。

○ 企業で人材育成を担当している。やりたいことを極めてから卒業した生徒のパフォーマンスはとても高い。そうした進路選択ができるとよいと思う。学部選択のミスマッチを回避する方策はないか。新入社員 20 名のうち、研究職はほぼ辞めない（転職しない）ことが多い。しかし新入社員は受け身な子が多い。意欲的な生徒が減少している印象。モチベーションを上げる方策はないものか。

○ 江南高校ではオープンキャンパスや大学授業体験の実施などに力を入れている。

議事録４　　防災部会　　記録

○ 7 月 13 日に実施した防災教育（授業）を紹介する。

講　師：NHK アナウンサー　井上二郎氏

テーマ：ことばで命を守る

概　要：オンラインにて全校一斉授業方式で実施（但し 1 教室に講師と希望生徒、放送委員 20 名ほど、また地域自治会から 10 名の参加があった）

内　容：講師による自己紹介

NHK 災害報道の実際

グループワーク・討議結果の発表

【参加者の感想から】

・地域の方々の参加を得て実施された今回の防災教育は生徒にとって刺激になった。

・地域住民参加型の形態が、非常に良い効果をもたらすということに確信を持った。

・生徒は、家族をはじめ、いざというときに身近にいる人との助け合いが必要だという意識を強く持った。

・地域の方々には生徒の考え方を知っていただく良い機会になった。

○　12 月 7 日に予定されている防災教育は、昨年までの懸案であった自治会と何らかの形で連携したものにしたい。

○　平塚市としては防災講演会の講師紹介などで協力できる。

○　体育館を利用して、避難所模擬体験はできないか。

○　平塚市の防災訓練班と連携できるのではないか。

【南海トラフ地震の特殊性に関して（市より情報提供）】

○ 気象庁から「臨時情報発出」の場合、防災態勢をとりながら日常生活を回すことになる。学校の対応は難しくなるのではないか

【旧平塚商業高校の避難所指定の廃止について（市、自治会より情報提供）】

○ 机上計画では本校には関係しないと思われるが、春日野中学、富士見小学校への影響があり、災害時には影響がでることも考えられる。